



Racing Specialities

保存版



## 取扱説明書

### ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

## 安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



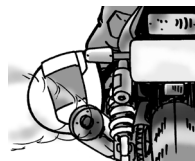
### ▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



### ▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



### ▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

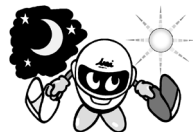
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

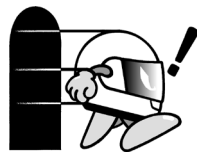
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調整するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を中性タイプの食器洗い洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。尚、ヘルメットを構成する部品（衝撃吸収ライナや窓ゴム・縁ゴム等）をバラバラに分解して塗装するのは、絶対にお止めください。





### ▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



### ▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



### ▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

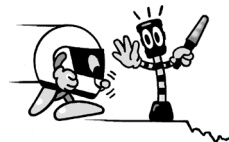
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

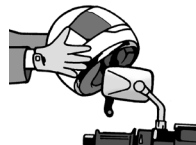
### ▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。



### ▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁ゴムを傷付け、それをきっかけに縁ゴムが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護している縁ゴムが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



### ▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



### ▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



### ▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



### ▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧る類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



### ▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

### ▼エアロフラップについて

当ヘルメットに取り付けられているエアロフラップは、両面テープ等でヘルメットに接着されています。しかし、ヘルメットを持ち歩く際に手で持ったり、掴んで強く引っばるとヘルメットから脱落するおそれがありますので、ご注意ください。



## ▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネート樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

## ▼ベンチレーションダクトについて

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

## ▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの食器洗い洗剤を水で薄めてご使用ください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

## ▼ヘルメットのお手入れにご使用になる洗剤について

頑固な油汚れ用の【アルカリ性洗剤・弱アルカリ性洗剤】、バス・トイレ用の【酸性洗剤】はヘルメットのお手入れに絶対に使用しないでください。使用した場合にはヘルメットを破損して、その機能を損なうおそれがあります。

pH (水素イオン指数)	3以下	3以上～6未満	6以上～8未満	8以上～11未満	11以上
液性	酸性	弱酸性	中性	弱アルカリ性	アルカリ性
ヘルメットへの使用	×	×	○	×	×

ヘルメットに、中性以外の洗剤はご使用頂けません。



ヘルメットのシールドやベンチレーションダクト、ホルダー等の樹脂成形部品のお手入れには【中性タイプの食器洗い洗剤】を、ヘルメットの内装のお手入れには【中性タイプの洗濯洗剤】を推奨しています。しかし、たとえ液性が中性であっても、使用する状況や条件によって樹脂成形部品を破損させるおそれがありますので、十分ご注意ください。

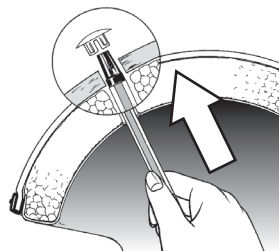


樹脂成形部品に中性洗剤の原液を直接掛けたり、洗剤を溶かした水の中に長時間漬け込んだり、洗浄後の洗剤成分の除去が不十分だった場合、洗剤成分が樹脂成形部品に浸透して亀裂や割れを生じさせる原因となります。

## ▼ドレンキャップの外し方。※ドレンキャップを装着したヘルメットに限ります。

ヘルメット内部の天井部分の穴（ドレンホール）にボールペンの軸を差し込み、衝撃吸収ライナー（発泡スチロール製）を傷付けないように注意しながらドレンキャップをゆっくりと押し出してください。尚、取り外したドレンキャップは小さいので紛失にご注意ください。

ドレンホールは、オプションダクトの取り付けや、洗った後の水抜きに利用します。



# XDの特長

## ①XDFダクト

左右に備わったダクトで外気をヘルメット内部へ導きます。  
そして、ダクト開口部を塞ぐことで風切り音を軽減します。

## ②XDRダクト

ワンタッチ操作で三ヶ所の排気口を同時に開閉できます。  
そして、ヘルメット内部にこもる熱気を排出します。

## ③サイドスリットエアーチャンネル

サイドスリットエアーチャンネルは、シールド内に停滞する空気をヘルメットの左右に設けられた排気口へ導きます。

## ④VAS-Vロック

RX-7Xで初採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムであるVAS-Vロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

## ⑤XDスリットシャッター

センターパッドに備わったスリットシャッターを開くと、導かれた外気が口元に吹き出して息苦しさを解消します。スリットシャッターを閉じると、外気はディフレクター方向に導かれてシールドの曇りを軽減します。

## ⑥ブローベンチレーション

ブローシャッターから取り入れられた外気は、インナーダクトによってヘルメット内部へと導かれます。

## ⑦FCSシステムパッド

FCS構造を取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

## ⑧EPフルシステム内装

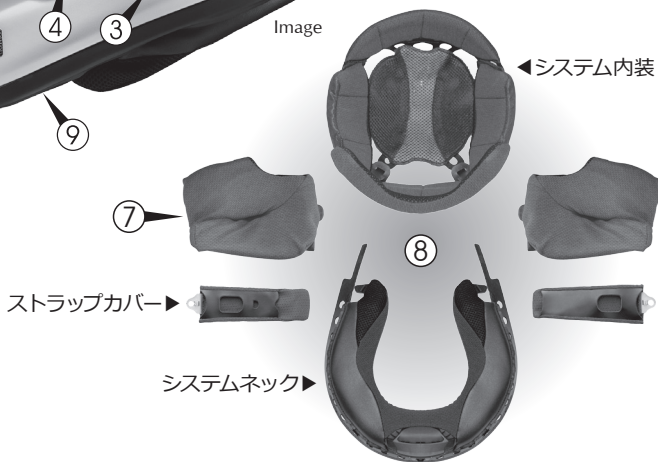
通常、生地に着した汗はアルカリ性となり、匂いの原因となる雑菌が生じます。当ヘルメットの内装には、付着した汗をアルカリ性から肌に優しい弱酸性に変化させる【pHコントロール：抗菌消臭高機能生地】が採用されています。

## ⑨エアロフラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。



- ①XDFダクト
- ②XDRダクト
- ③サイドスリットエアーチャンネル
- ④VAS-Vロック
- ⑤XDスリットシャッター
- ⑥ブローベンチレーション
- ⑦FCSシステムパッド
- ⑧EPフルシステム内装
- ⑨エアロフラップ

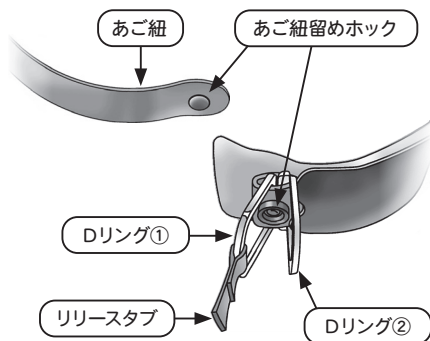


目次		ページ
A	あご紐の正しい締め方	12～13
B	デミストポジションについて	14
C	VAS-Vシールドの開閉	15
D	VAS-Vシールドの着脱	18～21
E	シールドベースの着脱	22～23
F	ストリングの着脱	24
G	ブローシャッターの操作	25
H	XDスリットシャッターの操作	25
I	XDF・XDRダクトの操作	26
J	XDディフレクターの着脱	27
K	システムパッドの着脱	28～29
L	パッドカバーの着脱	30～32
M	システム内装の着脱	34～36
N	ヘルメットのサイズ調節	37
O	システムネックの着脱	38～39
P	ストラップカバーの着脱	40～41
Q	ヘルメットのお手入れ	42～43
R	オプションパーツリスト	44
巻末付録①～②		46

## A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

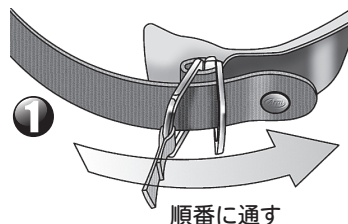
あご紐の各部名称



### ①二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順番に中に通します。

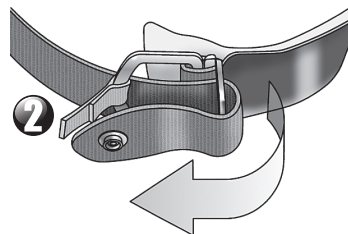
※あご紐を通す際、途中でねじれさせないようにご注意ください。



順番に通す

### ②あご紐を180°折り返す

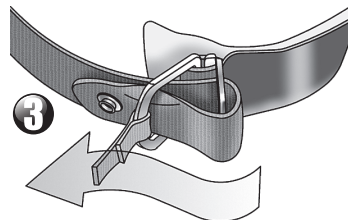
Dリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱり、弛みを取り除きながら180°折り返します。



180° 折り返す

### ③Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

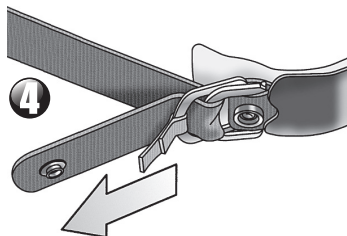


Dリング①に通す



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



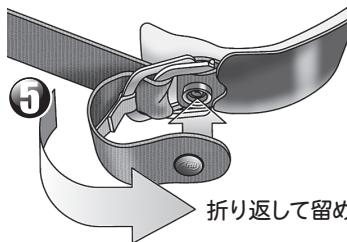


#### ④あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

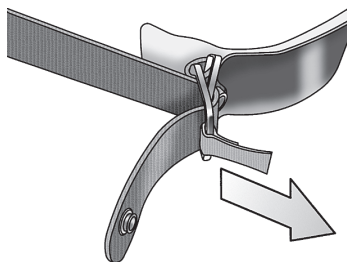
※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



#### ⑤余った先端部を留める

【あご紐留めホック】で余ったあご紐の先端を留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへのあご紐の付着を防止できます。

乗車服や雨合羽などの襟元の面ファスナーにあご紐が付着すると、後方確認時に首の動きを妨げるおそれがあります。また、面ファスナーにあご紐が付着すると毛羽立ちの原因になります。



Dリングに通さず、あご紐留めホックで留めただけの状態であご紐を持たないでください。  
あご紐留めホックが外れてヘルメットが落下し、破損させるおそれがあります。



#### リリースタブの使い方

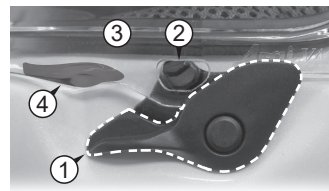
【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

## VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

## VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー（点線部）
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



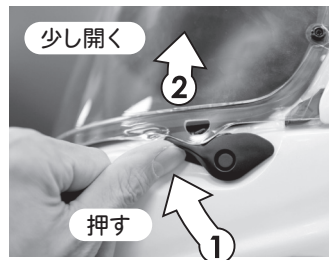
## B デミストポジションについて

### シールドロックからデミストポジションへ

〔Vロックレバー〕前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態を〔デミストポジション〕と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



ココを押し上げる



### デミストポジションからシールドロックへ

〔シールドの指かけ〕の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



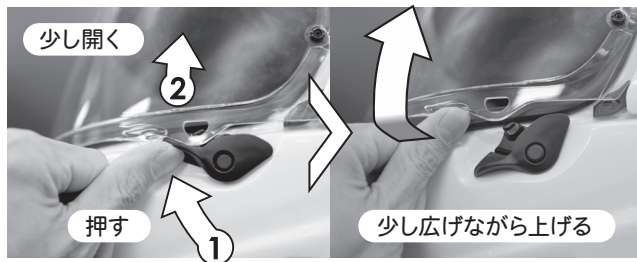
シールドロック完了

## C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

〔Vロックレバー〕 前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

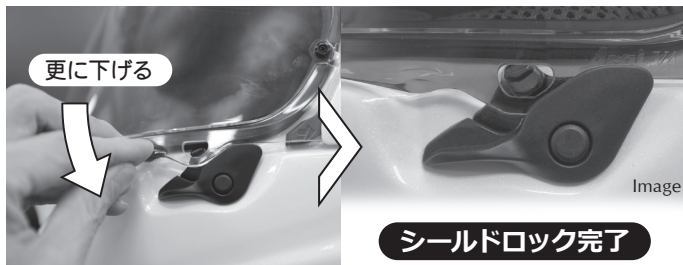
次に、〔シールドの指かけ〕 の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

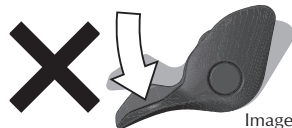
次に、〔シールドの指かけ〕 の上に指をかけて**デミストポジションから更に**シールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。

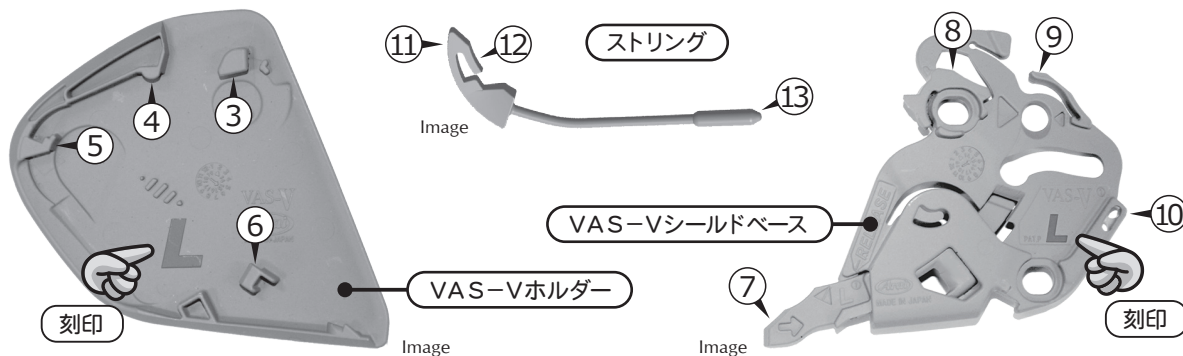
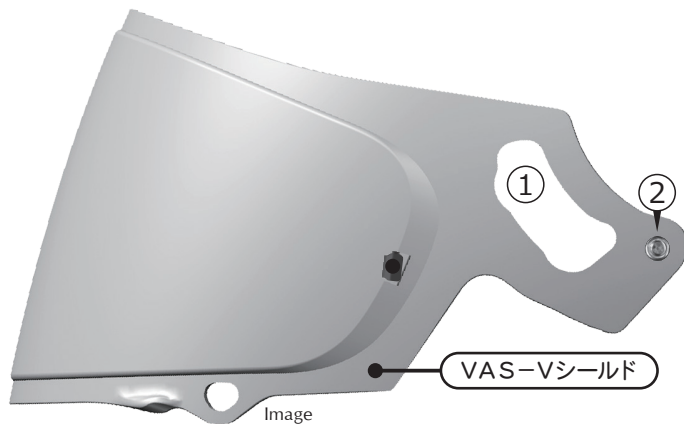




*Racing Specialities*

## VAS-V構成パーツの各部名称

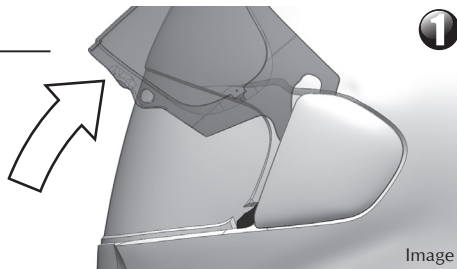
VAS-Vシールド	1	摺動穴
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー (L・左側)	3	上部フック(前)
	4	上部フック(後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
VAS-V シールドベース (L・左側)	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け(前)
	9	上部フック受け(後)
	10	ストリング用マウント
ストリング	11	フック
	12	返し
	13	アンカー



## D VAS-Vシールドの着脱

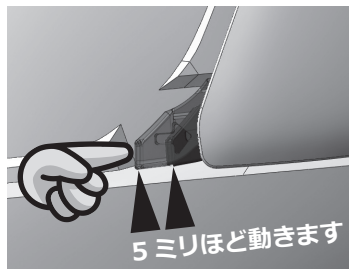
### シールドの外し方

①シールドを開いて全開にします。※図ではVロックレバーが省略されています。

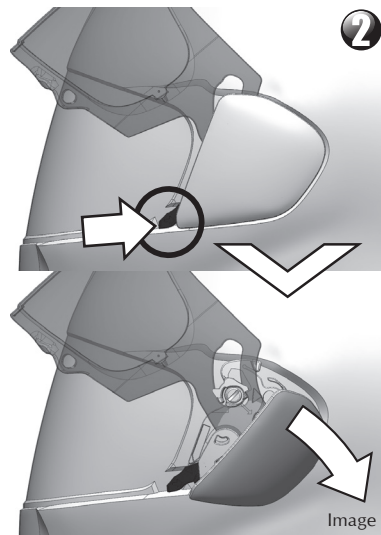


②ホルダーの前方に見える【VAS-Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。

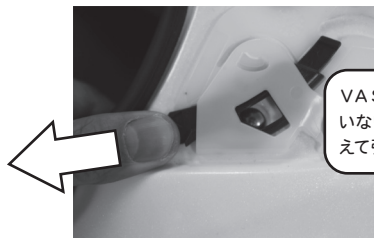
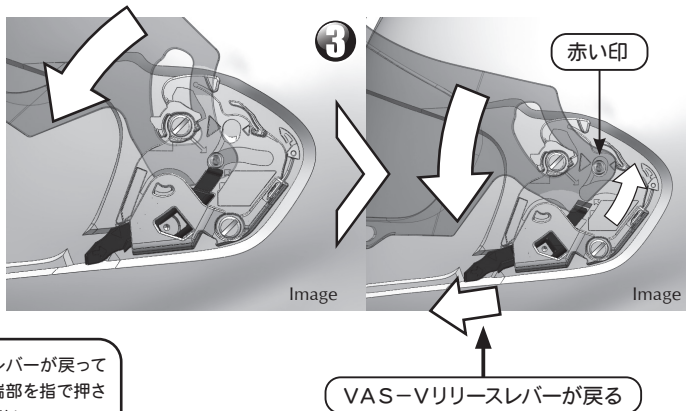


ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。



③ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げると、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

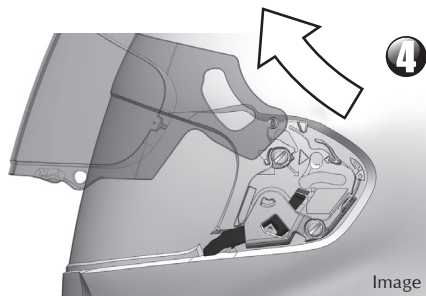
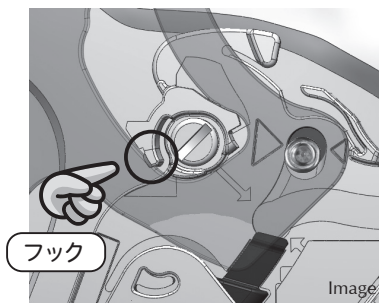


VAS-Vリリースレバーが戻っていない場合は、先端部を指で押さえて引き出してください。



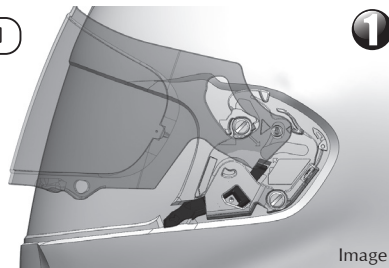
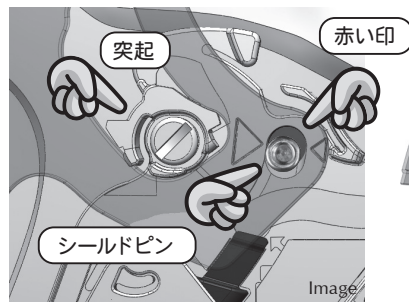
④ この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくことでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

反対側も同様の手順で取り外しを行ってください。

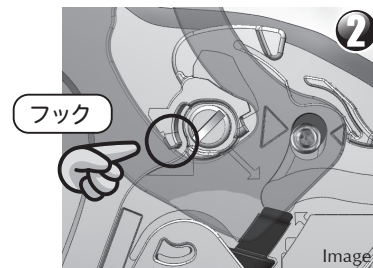


## シールドの付け方

①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。

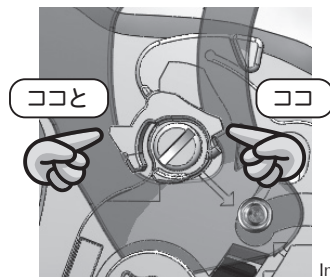


②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。

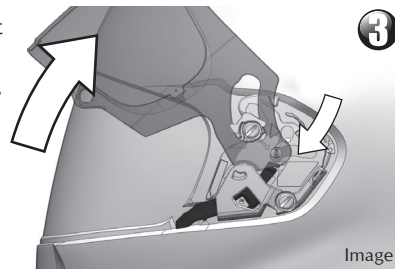


③シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）に入り込みます。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

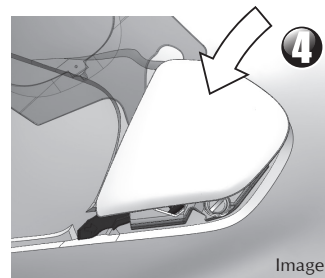
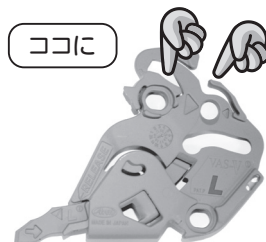
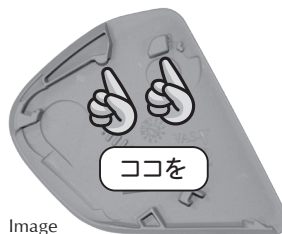


ベースの指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認して、シールドを上げます。

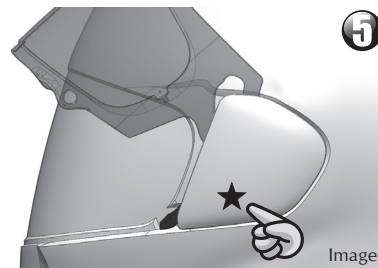




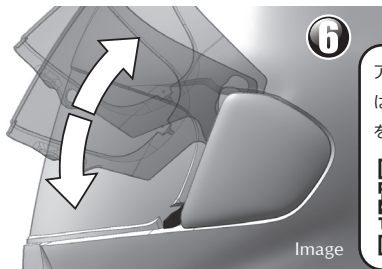
④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。



⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。



⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。



シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってから、ヘルメットをご使用ください。



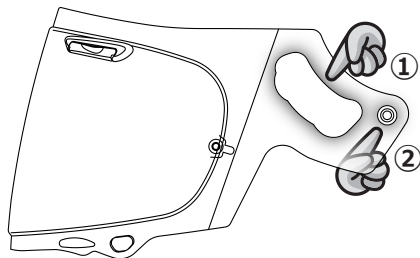
アライヘルメットのホームページでは、VAS-Vシールドの着脱方法を動画配信しています。



動画配信QRコード  
※通信料はお客様のご負担となります。予めご了承ください。

## シールドの動きが渋い場合は

シールドの動きが渋くスムーズでない場合は、一旦シールドを取り外してシールドの摺動穴周辺①と、内側に突き出たシールドピンの軸②に潤滑シリコンを少量塗布し、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分馴染ませてください。



## E シールドベースの着脱

シールドベースを外す際は、左右のホルダーとシールドを外してシールドベースを固定する上下2本のネジを10円玉などの硬貨で回して外します。シールドベースを取り付ける際は、シールドベースの左右を刻印で確認してネジで取り付けてください。

※ホルダーやシールドベースには左右確認用の刻印、L : LEFT (左)、R : RIGHT (右) 等が設けられています。



シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着具合）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。

そのような時には、次のページでご案内する「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」を行なってください。



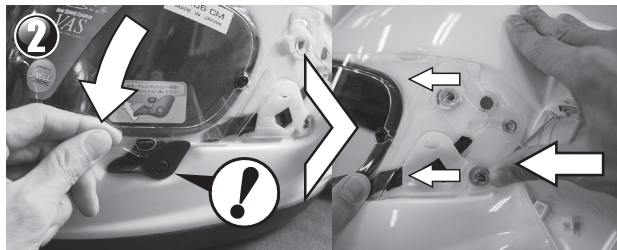
## シールドベース調整によるフィッティングの最適化

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS-Vリリースレバーをリセット（元の位置に戻す）させるため、シールドを一旦シールドベースから外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少しだけ緩めます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



②シールド側の指かけに指をかけ、カチッ!と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押し下げて下さい。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



## F スtringの着脱

### ホルダー側のフックの外し方

Stringのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。



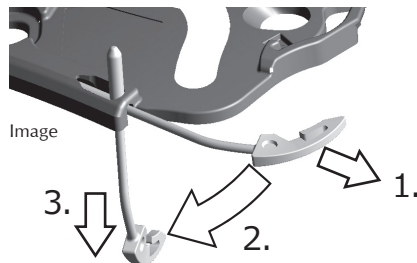
### ホルダー側のフックの付け方

Stringのフックを、ホルダーのマウントに奥まで差し込みます。



### シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからStringを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け90度折るように曲げるとシールドベースから外れます。

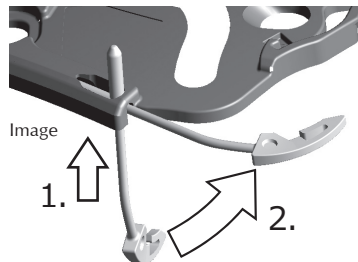


シールドベースを外さないと、Stringのアンカーは外せません。



### シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にStringのアンカーを裏から差し込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。



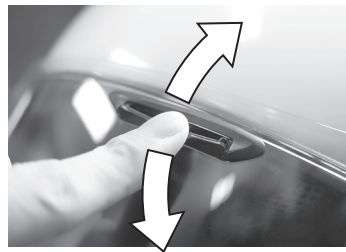
Stringを付けずにヘルメットをご使用になると、シールドの着脱の際、ホルダーを床や地面に落とすおそれがあります。



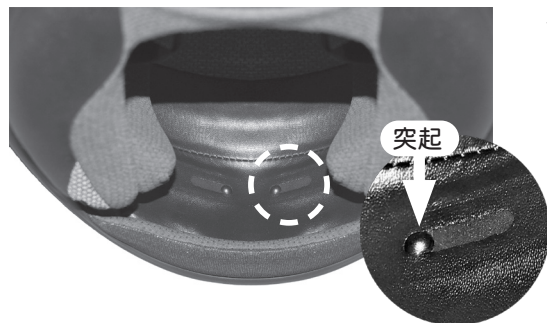
## G ブローシャッターの操作

ブローシャッターの中央の膨らみに指をかけて引き下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、流入は止まります。

雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



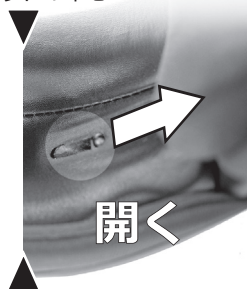
## H XDスリットシャッターの操作 ※作用や効果などは、当取扱説明書10ページ左下の⑤をご参照ください。



スリットシャッターの開閉は、半球形の突起を左右に動かして行います。



ヘルメットの中心



開く

突起をヘルメットの中心から離すように動かすとシャッターが開き、外気が流入します。

ヘルメットの中心



閉じる

突起をヘルメットの中心へ近づけるように動かすとシャッターが閉じ、流入は止まります。

## I XDF・XDRダクトの操作

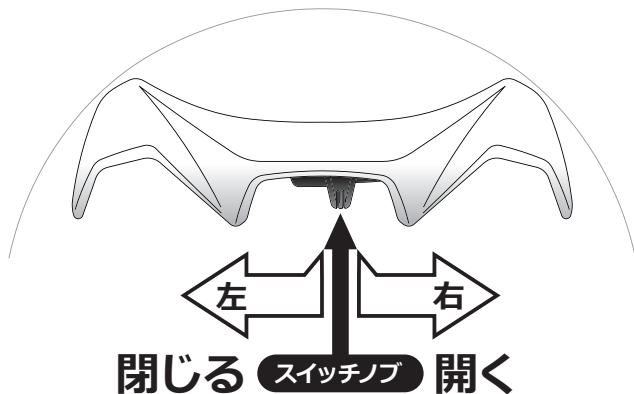
### XDFダクトの操作

ダクト側面のスイッチノブを後方（ヘルメットの前後に準じます）にスライドさせるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。スイッチノブを前方にスライドさせるとシャッターが閉じ、流入は止まります。



### XDRダクトの操作

ダクト中央の排気口から出ているスイッチノブを（ヘルメットを後から見て）右にスライドさせるとシャッターが開き、ヘルメット内にこもる空気を排出します。スイッチノブを左にスライドさせるとシャッターが閉じ、排出は止まります。



雨の日はシャッターを閉じてご使用ください。尚、水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



## Ⅰ XDディフレクターの着脱

### XDディフレクターの外し方

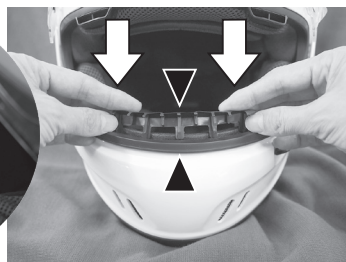
ディフレクターは、上部の端をしっかりと掴んで引き上げると取り外すことができます。

ディフレクターは、マウスシャッターやマウス・スリットより取り入れた空気をシールド内面に向けて吹き付ける作用があり、シールドの曇りを軽減します。



### XDディフレクターの付け方

ディフレクターは、窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込みます。ディフレクター中央のフックと、ヘルメットの中心を合わせ、フックを奥までしっかりと差し込んでください。

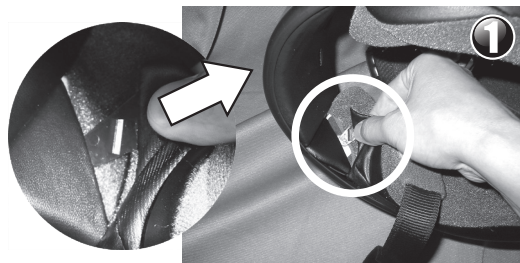




## K システムパッドの着脱

### システムパッドの外し方

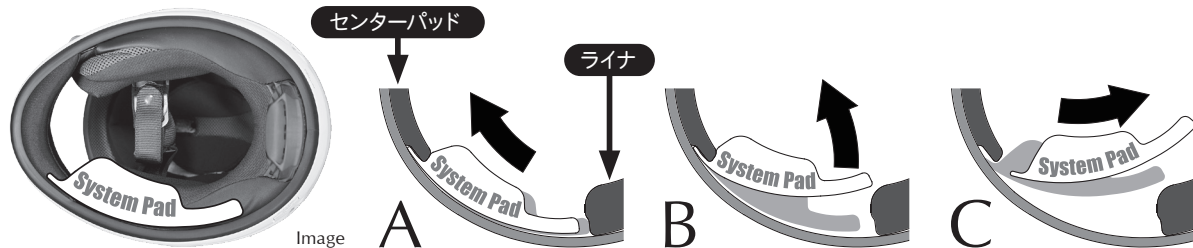
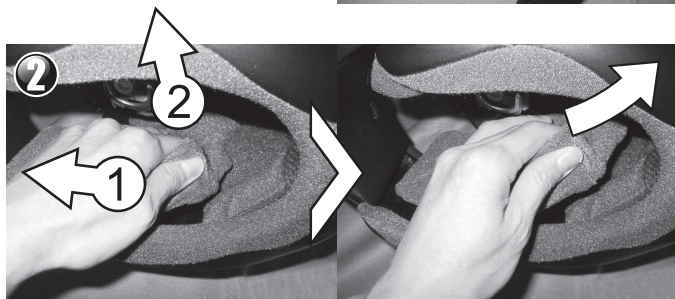
① 先ず、システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】の根元を摘んで、差し込まれているタブを矢印の方向に引き抜きます。



当ヘルメットのシステムパッドは、必ず後方を持ち上げて外してください。前方を無理に持ち上げると破損しますのでご注意ください。



② システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナの凹部への引っかかりを解除します。（下図Aを参照）そして、システムパッドの後方を持ち上げます。（下図Bを参照）システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。（下図Cを参照）





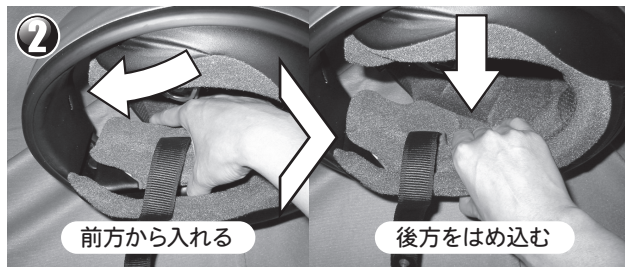
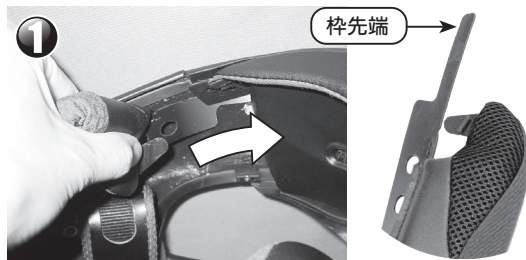
## システムパッドの付け方

システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

①ネックパッドの杵先端が外れて飛び出している場合は、帽体とセンターパッドの隙間に差し込みます。杵先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。

②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥まで差し込み、システムパッドの後方をヘルメット側へ押し付けます。

③あご紐を引っばって弛みを取り除きます。そして、システムネックの【タブ】をシステムパッド前方のポケットに奥まで差し込みます。

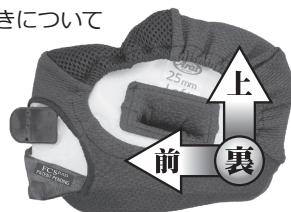


タブの取り付けが不十分だと、走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。ステムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。



## システムパッド各部名称

## パッドの向きについて



システムパッドは、肌に接する側が表です。



## L パッドカバーの着脱

### パッドカバーの外し方

①パッド後部より先にカバーを外し、その後カバー全体を外します。

②パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。



## パッドカバーの左右の確認方法

パッドカバーとパッド本体には、左（L：Left）右（R：Right）が、縫い付けラベルや布製シールによって表示されています。



カバーの表示



パッド本体の表示



必ず、同じ方向の表示ラベルをベアにしましょう。

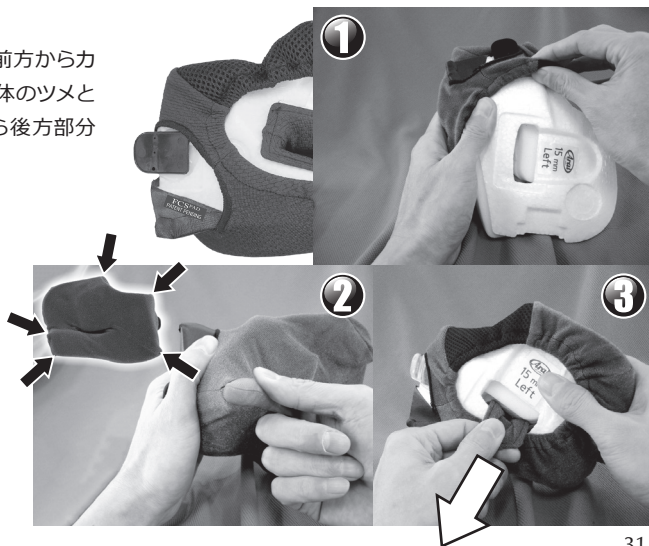


## パッドカバーの付け方

同じ方向のパッド本体とカバーを用意して、①のように、前方からカバーをかぶせます。この時、カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調整を行い、位置が整ったら後方部分にもカバーをかぶせます。

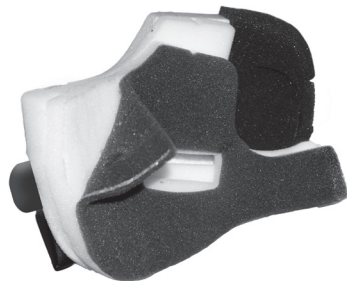
②カバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するのでウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッド表面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

③パッドの中央の穴にストッパーを縦向きに通し、パッド裏面の四角い窪みに収めます。



## 調節パッドによるシステムパッドのサイズ調節

システムパッドには、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システムパッドを約5mm薄くすることができます。システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

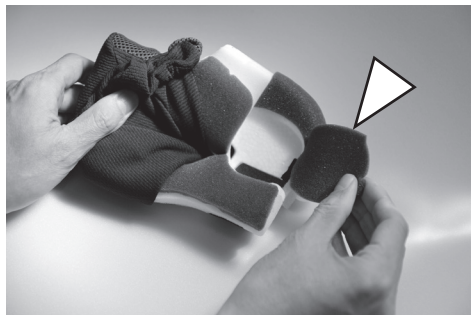


調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

## システムパッドのインカムホールについて

耳が収まる部分に貼られているウレタン（遮音性ウレタン）には丸い切れ込みが入っています。これを剥がして取り除くと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。

直径5cm未満の薄型タイプヘルメット  
スピーカーをご利用ください。



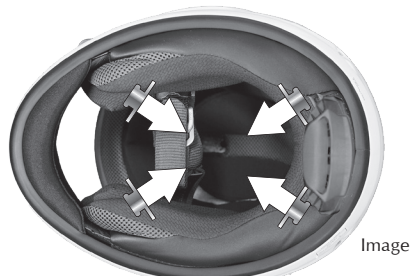


*Racing Specialities*

## M システム内装の着脱

### システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



Image

それぞれのホックを引っばる向き

②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

外したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



## システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。

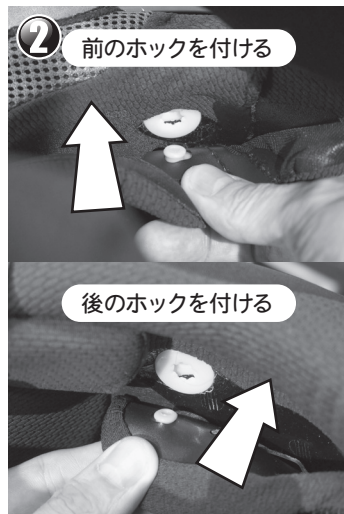


②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。





## 調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約4mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。





## N ヘルメットのサイズ調節

標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

### システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】【57 - 58と59 - 60未満】にはそれぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズは数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	内装枠サイズ・パッド厚 (mm)		
54	Ⅱ-7	Ⅱ-10	
55 - 56		Ⅱ-7	Ⅱ-10
57 - 58	Ⅲ-7	Ⅲ-10	
59 - 60未満		Ⅲ-7	Ⅲ-10
61 - 62未満		Ⅳ-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

### システムパッドによる頬部の調節

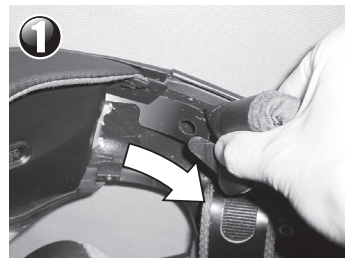
システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、基本的にどの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットサイズ (cm)	システムパッドの厚み (mm)		
54	20	25	
55 - 56・57 - 58	15	20	25
59 - 60未満・61 - 62未満	12	15	20
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

## ○ システムネックの着脱

### システムネックの外し方

①システムネックの【タブ】をシステムパッドのポケットから抜き取り、左右のシステムパッドをヘルメットから取り外してください。そして、センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【杵先端】を、左右とも抜き取ります。



②システムネック中央の成形部品付近をしっかり掴みます。



ヘルメットの縁ゴムに沿って左か右向きに3~4 cmほどスライドさせます。



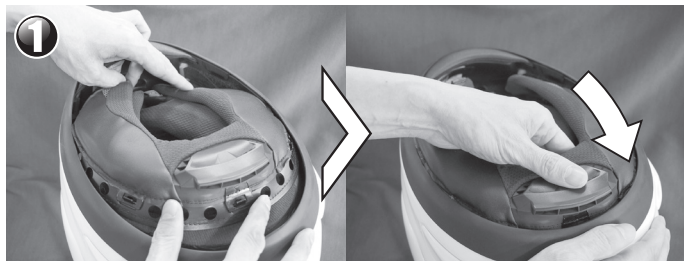
スライド後に、システムネックを引き抜くことができます。



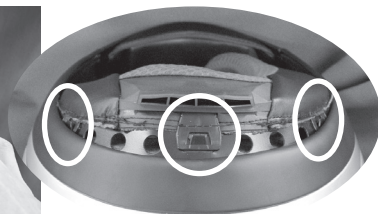
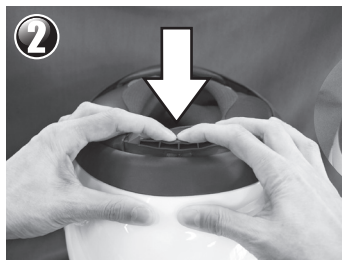
システムネックを外す際は、システムネックの杵ごとしっかり持ってください。尚、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

## システムネックの付け方

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②ネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で挟むようにして取り付けます。尚、各フックは「カチッ」と入る感触がするまで確実に押し込んでください。

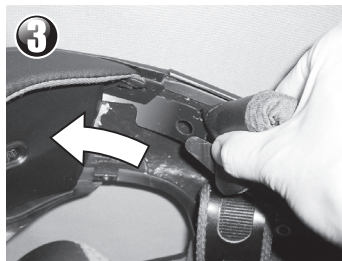


フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っぱってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付け、システムネックのタブをシステムパッドのポケットに差し込めば作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。



システムネックはヘルメットサイズによって、その大きさが異なります。お客様がお持ちのヘルメットサイズをご確認の上、お選びください。



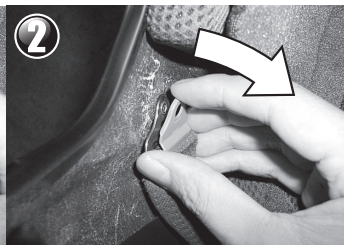
## P ストラップカバーの着脱

### ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。



②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。



③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーツリストをご参照ください。

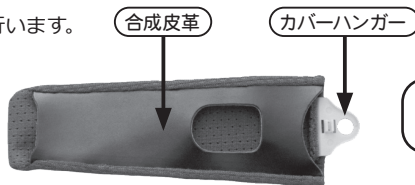


### ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右と表裏の確認を行います。



【左用ストラップカバー・裏】



【右用ストラップカバー・裏】

ストラップカバーは、肌に触れる面が「表」。合成皮革側が「裏」です。

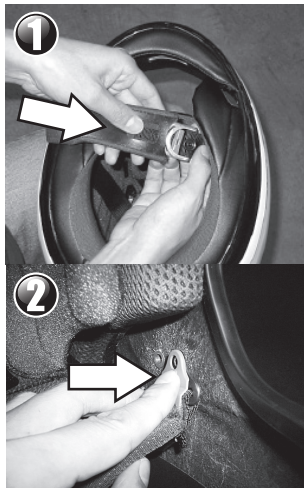


## 左用ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏(合成皮革側)を手前に向け、Dリング側のあご紐の根元まで差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

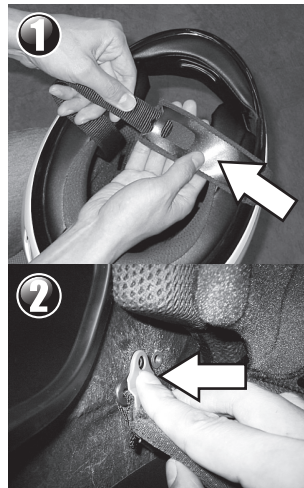


## 右用ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏(合成皮革側)を手前に向け、長い方のあご紐の根元まで差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



あご紐は、刻印の入ったスナップの頭を上に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

## Q ヘルメットのお手入れ

### パーツ類のお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

ホルダーやベンチレーションダクト、プロシェードシステム（オプション）やVAS-Vロックの構成部品等のパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。その後、水を含ませた布で洗剤成分をよく取り除き、自然乾燥させてください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

### シールドのお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは水で薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールドの素材は、酸性やアルカリ性の洗剤を使用したり、アルコール成分を含むクリーナー類で拭いたり、シンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用するとシールドの素材が侵されシールドにヒビ割れが生じます。そして、万一の衝撃時に、そこをきっかけに破損するおそれがあります。また、シールドに取り付けられているパーツ類も破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で虫を拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

## ヘルメット本体の洗い方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いする時は、ヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

## 着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いを行います。システム内装・システムネック等の枠が付いた内装は、枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

## ▼EP内装（pHコントロール：抗菌消臭高機能生地）について

EP内装（pHコントロール：抗菌消臭高機能生地）は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。



## R オプションパーツリスト

オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

パーツ名		部品番号
VAS - V MVシールド	クリアー	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120 (クリアー)		011079
VAS - Vダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS - Vポスト付シールド	クリアー	011054
	スモーク	011055
VAS - Vティアオフシールド (クリアー)		011065
VAS - V PSプロシェードシステム		011070
VAS - V PSノンバイザーシールド		011071
VAS - V PSサンバイザー (スモーク)		011073
VAS - V PS サンバイザーミラー	スモーク/シルバー	011074
	スモーク/レッド	011075
	スモーク/ブルー	011076
VAS - V PSピボットカバー		111138
VAS - Vホルダー	グラスホホワイト	025429
	グラスブラック	025430
	フラットブラック	025432
	アウトライン・赤	025484
	アウトライン・青	025485
	アウトライン・黒	025486
	ディアプロ・赤	025487
	ディアプロ・黄	025488
VAS - Vシールドベース		021066
スーパーアドシスネジセット		112511

パーツ名		部品番号
XDFダクト (左右セット)	グラスホホワイト	105602
	グラスブラック	105603
	フラットブラック	105604
	スモーク	105605
	フラットスモーク	105606
XDRダクト (カバーのみ)	グラスホホワイト	105632
	グラスブラック	105633
	フラットブラック	105634
	スモーク	105635
	フラットスモーク	105636
XD EPシステムパッド	12mm	055661
	15mm	055662
	20mm	055663
	25mm	055664
RX-7X EPシステム内装	II-10mm	075682
	II-7mm	075683
	III-10mm	075686
	III-7mm	075687
	IV-7mm	075691
XD EPシステムネック	(54) ~ (59-60)	075698
	大 (61-62)	075699
RX-7X EPストラップカバー	(54) (55-56)	073616
	大 (57-58 ~ 61-62)	073617
ESチンカバーV		075711
XDディフレクター		082390
IPディフレクター		082391



## ヘルメットの内装のコットン化について

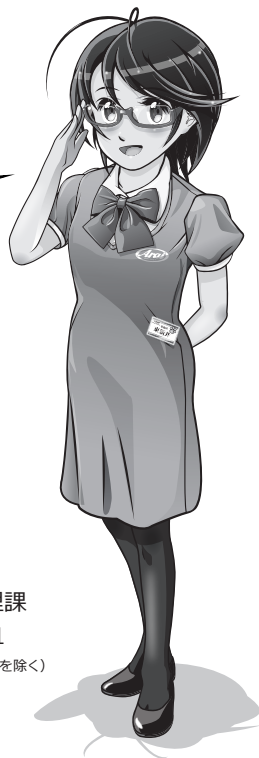
ヘルメットの内装生地には  
化学繊維が使われています  
しかし天然素材以外は  
使用できないお客様のために  
天然コットン100%生地内装の  
製作ご相談もアライヘルメット  
品質管理課で受け付けています

※コットン生地への変更は、システムパッド・システム内装・システムネック・ストラップカバーに行えます。尚、コットン生地は、標準内装生地とは色合いが異なりますので予めご了承ください。

アライヘルメット品質管理課

☎048 - 645 - 3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）



## 付録①シールドカラーの選び方



晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

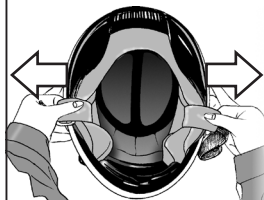
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはセミスモークシールドがお勧めです。

## 付録②FCS採用のヘルメットのかぶり方



FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



## 株式会社 アライヘルメット

☎330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048 - 645 - 3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）